

第2学年音楽科学習指導案

日 時 平成 16年 6月 29日(火) 4校時
児 童 2年1組 男子15名女子11名 計26名
指導者 平 松 真 理 子

1 題材名 音がくに あわせて

2 題材の目標

- ・歌ったり身体表現をしたりして、拍の流れを感じ取ることができるようにする。
- ・拍の流れに乗って、簡単なリズムが表現できるようにする。

3 教材曲 「かっこう」「かえるのがっしょう」「なかよしマーチ」

4 指導観

(1) 題材について

この題材は主に学習指導要領のA表現(2)のイ「拍の流れやフレーズを感じ取って演奏したり身体表現をしたりすること。」、(3)のイ「身近な楽器に親しみ、簡単なリズムや旋律を演奏すること。」に関わるものである。この題材では、歌うことや楽器を演奏することなどの表現活動を通して、拍の流れに乗って、や のリズムを感じとったり表現したりする学習を中心に学習を進めていく。簡単な旋律やリズムを友達と一緒に演奏することを通して、お互いに聴き合い、旋律やリズムを合わせて表現する楽しさを味わわせることにふさわしい題材である。

(2) 児童について

児童は、1学年では、拍の流れに合わせて手拍子を打ちながら歌ったり、歌詞の内容から様子を思い浮かべながら歌ったりする活動などに取り組んできている。

2学年では前単元「みんなあつまれ」で、友達と一緒に歌ったり、音楽に合わせて身体表現したりする活動を行ってきた。曲に合った身体表現を考えたり、わらべうたなど遊びの中にある音楽に親しんだりしながら、自然に音楽に反応し体を動かす楽しさや、遊びを通して音楽の楽しさを味わってきた。またその中で、友達と声を揃えて歌う喜びや、一緒に体を動かす楽しさも感じながら活動できるようになってきている。

しかし、お互いに聴き合ったり、曲のふしに合わせて、異なる旋律やリズムを表現することはまだ十分にできていない。自分のパートを演奏することに夢中であり、他を意識して演奏したり、全体との係わりを考えて表現することはまだ難しい。

(3) 指導にあたって

低学年の指導の重点であるリズムは、拍の流れやリズムを感じ取るという感覚面と、これらを表現する技能面の両方から身につけさせていくことが必要である。そこで単元を通して拍の流れを感じさせるための活動を工夫していきたい。数少ない3拍子の曲では、その拍子感に十分にひたらせ、バッテリーリズムによる表現を体験しながら強拍部と弱拍部の違いを感じ取らせていきたい。また、バッテリーリズムによる表現や、輪奏、分担奏などの活動を通して、互いの音を聴き合って表現すること、他を聴きながら合わせる力を身につけさせていきたいと考える。

楽器の基本的な奏法に慣れるとともに、本来の音符に親しみリズムの視唱や視奏に慣れるよう扱っていきたい。

5 題材の評価規準

- (1) リズム奏や階名唱に興味を持ち、互いの音を聴き合って合わせようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 拍の流れを感じ取りながら、輪奏・分担奏・合奏の工夫をしている。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 拍の流れに乗って簡単なリズムを表現したり、リズム伴奏に合わせて表現したりすることができる。
(表現の技能)

6 題材の指導と評価 (11時間計画)

	ねらい	時	主な学習活動	教材			評価規準
第一次	歌ったり身体表現をしたりして、拍の流れを感じ取る。	1	歌ったり階名唱したりして拍の流れを感じ取る。	か	蛙	仲	進んで歌ったり階名唱したりしようとしている。(1)
		2	歌ったり階名唱したりして拍の流れを感じ取る。				拍の流れを感じ取って階名唱したり輪唱したりしている。(2)
		3	歌ったり階名唱したりして拍の流れを感じ取る。				進んで歌ったり階名唱したりしようとしている。(1)
第二次	拍の流れに乗って、歌ったりリズムを表現したりできるようにする。	4	旋律を楽器で演奏できるようにする。				3拍子の旋律を楽器で演奏できるようにする。(3)
		5	3拍子の拍の流れに乗ってリズム伴奏の工夫をする。				互いの音を聴きながら音量のバランスを工夫して演奏している。(2)
		6	拍の流れに乗って歌ったり楽器を演奏したりする。				拍の流れに乗って旋律を楽器で演奏することができる。(3)
		7	拍の流れを感じ取りながら輪唱や輪奏したりする。				互いの音を聴き合って輪唱や輪奏している。(2)
		8	曲の感じをとらえて、歌い方の工夫をする。				前半と後半の違いを感じ取って歌い方の工夫をしている。(2)
		9	旋律を鍵盤楽器で分担奏する。				拍の流れに乗って鍵盤楽器で旋律を分担奏することができる。(3)
第三次	リズム伴奏に合わせて歌ったり、合奏したりして楽しむ。	10	手拍子や楽器でリズム伴奏ができるようにする。(本時)				楽器の組み合わせを考えてリズム伴奏をすることができる。(3)
		11	合奏を楽しむ。				全体の響きを感じながら自分のパートを演奏することができる。(3)

《教材名》 か(かっこう) 蛙(かえるのがっしょう) 仲(なかよしマーチ)

7 本時の目標 楽器の組み合わせを考え、拍の流れに乗ってリズム伴奏をすることができる。

8 本時の評価規準・具体的評価規準

本時の評価規準	具体的評価規準		努力を要する児童への対応・手立て
	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
楽器の組み合わせを考えて、リズム伴奏をすることができる。 (表現の技能)	強拍と弱拍に合う楽器があることに気づき、演奏の仕方や強弱に気を付けながら拍の流れに乗ってリズム伴奏をすることができる。	楽器の組み合わせを考え、拍の流れに乗ってリズム伴奏をすることができる。	同じパートを担当する友達の演奏をよく聴いて合わせて演奏させるようにする。

9 本時の展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の配慮事項 評価
導入 5分	1 既習曲の歌唱。 ・「なかよしマーチ」を歌う。 2 本時の学習課題を把握する。 「なかよしマーチ」に合わせてみんなでリズムばんそうをしよう。	・前時の学習を思い出させながら拍の流れに乗って歌うよう意識させる。 ・前時に手拍子で表現したリズムを楽器で演奏することを確認する。
展開 38分	3 リズム伴奏のリズムを手拍子で表現する。 4 楽器でリズム伴奏の工夫をする。 ・どんな楽器で演奏したらよいか話し合う。 ・自分で考えた組み合わせをプリントに記入してみる。	・前時の活動を思い出しながら、楽しく活動させる。 ・本時で使う楽器を紹介し二つ選んでバッテリーを組むことを確認する。 ・子供たちから演奏してみたい楽器を挙げさせいろいろな楽器の組み合わせを聴き強拍と弱拍に合う楽器があることに気づかせる。 楽器の組み合わせを考え、プリントに記入することができる。(表現の技能) [発表・プリント] 【努力を要すると判断した子への支援】 使える楽器を確かめ、そこから二つの楽器を使用することを確かめる。「かっこいい」のリズム伴奏の活動を想起させる。
閉	5 グループで話し合い、演奏する楽器と分担決め、練習を進める。	・話し合いがスムーズに進むよう、各グループを回り支援する。 ・楽器の数や人数のバランス、演奏の仕方を考えさせる。 ・拍の流れを感じながら練習に取り組めるよう工夫したり、練習の合間にしっかり話し合ったりできるよう時間を確保していく。 楽器の組み合わせを考え、拍の流れに乗ってリズム伴奏をすることができる。(表現の技能) [発表・観察・プリント]

	<p>6 グループごとに発表する。 ・楽器の組み合わせを意識しながら聴く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【努力を要すると判断した子への支援】 役割を確認し同じパートの友達の演奏をよく聴き、合わせて演奏するようにさせる。リズムが理解できていないときはもう一度一緒にリズムを確認する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・CDの歌に合わせてグループごとに1番のみ発表させる。 ・よかったところを認め励ましていく。
<p>終 末 2 分</p>	<p>7 学習を振り返り自己評価をする。</p> <p>8 次時の確認 ・リズム伴奏と鍵盤ハーモニカを合わせ合奏を楽しむことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手で自己評価をさせる。